

2025. 10. 12

＊ 週報 ＊

東戸塚

No.2746 Vol.54-05

第1=9:00~10:15 第2=10:30~11:45 第3=18:00~19:00

「それは、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦人も共同の相続人になり、ともに同じからだに連なって、ともに約束にあずかる者になるということです。」
(エペソ3:6)

<第1礼拝>

<第2礼拝>

司 会 カポンポン頼基

伊東 献仁

前 奏 奏 楽

頌 栄 新聖歌 6 0

一同・起立

主 の 祈 り 歌・新聖歌 5 4

一同・起立

聖 書 交 読 詩篇 1 2 8 : 1 ~ 6 (旧 1073 頁)

一 同

祈 禱

司 会 者

暗 唱 聖 句 詩篇 1 2 6 : 2, 3

一 同

ワーシップ 主よささげます、神のひとり子

一 同

聖 書 拝 読 エペソ 3 : 1 ~ 7 (新 386 頁)

司 会 者

説 教 「キリストの奥義」

古波津美嗣

賛美・献金 新聖歌 2 4 2

使 徒 信 条 新聖歌 826 頁

一同・起立

頌 栄 新聖歌 6 3

一同・起立

祝 禱

伊東 献仁

報 告

チャーチ・オブ・ゴッド 東戸塚キリスト教会

〒244-0804 横浜市戸塚区前田町 507-15

電話 045-821-2517

主任牧師:伊東献仁 牧師:伊東美穂 協力牧師:カポンポン頼基 名誉牧師:伊東宏明、伊東博子

2025 年 10 月 12 日 聖日礼拝 「キリストの奥義」 エペソ 3 : 1～7

「それは、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦人も共同の相続人になり、ともに同じからだに連なって、ともに約束にあずかる者になるということです。」

(エペソ3:6)

序論

エペソの手紙は「恵みの栄光が、ほめたたえられる」(1:6)ことの回復が語られる。その回復のために、イエスは十字架にかかれ、そしてよみがえられた。それは、イエスが「キリストのからだ」に結び合わせる要の石となられたからである。

パウロは主キリスト・イエスの十字架と復活を「奥義」と呼ぶ。

「奥義」とは一般的な意味として、「学問や芸道、武術などの最も奥深くにある、最も重要で難しい事柄や心髄を指す。長い修業を経て極められるもの。」とされる。しかし、聖書は「奥義」を「おくぎ」と読む。原文では「ムステリオン」といい新共同訳では「秘められた計画」と訳される。つまり、「奥義」とは神の国に導く計画である。

1. イエス・キリストの奥義とは

「奥義は、知られざるものとしてではなく、啓示によって神から人に聖霊の働きによって解き明かされた真理なのである。」(聖書辞典)

私たちはキリスト・イエスにあって一つとされ、祝福を受けるのである。

2. イエス・キリストの奥義の啓示

旧約聖書によってイエス・キリストが預言され、新約聖書において、イエス・キリストが何を語り、何をなされたかを明確に知る。

そしてその私たちは「聖霊」の働きによって受け取るのである。

3. イエス・キリストの奥義の実践

この奥義を実践することは、イエスを信じ、そのいのちを生きる「子」として生きる。

キリストの奥義は一人で努力して到達する者ではなく、イエスと共に歩むものである。そうして、私たちもイエスが歩んっだ道を歩む。その道とは神と共に歩む道である。その道を歩むとき、私たちは主の与えられた使命を生きるのである。

〈結論〉 私たちは主の道を歩む。そこには主の試練がある。しかし、それは同時に、主が用意された祝福の道なのである。